

## 夏が来た

今日お母さんが梅を見ていた。まだ青い梅  
お母さんはいつも夏に梅干しをつくる。  
すっぱくておいしい梅干しを。

梅は二、三日で黄色くなる

そうすると家の中は梅の香りでいっぱいだ  
まるで果樹園にいるよう

甘い甘い香り

つけ始めた梅は形や色、香りまでも変える  
いよいよ赤い洋服を着せる時が来た

赤じそは私が葉をとった

みるみるうちに赤い布はざる一杯になる

どんどん赤くなつていく梅をお母さんは嬉し

そうに見ている

私もまねをする

お父さんや弟も見ているけれど一番嬉しそう

なのはお母さん

一番笑顔のお母さん

お母さんが笑っていると私も嬉しい

とつても嬉しい

ある日おきるとすっぱいにおいがした

梅干しのおい

ついに干したのだ

ベランダに置いてある梅干しはかわいい

毎年我が家が見る夏の光景。赤いじゅうたん

見るたび見るたび赤くなる梅干し

食べる日が楽しみだ

そして出来上がった

朝ご飯に真つ白なご飯に梅干しをのせる

真つ赤なきれいな梅干しを

「おいしい」

その梅干しは買うのと味がちがう

手作りの味がした

買うよりもとてもおいしくて

お母さんの手作りの梅干しが大好きだ

おいしい梅干しをつくってくれるお母さん

私のお母さん

大好きな梅干しみたいなきれいなお母さん

私のじまんのお母さん